

⑨ 日本国特許庁 (JP)  
 ⑩ 公表特許公報 (A)

⑪ 特許出願公表

昭57-500592

⑫ Int. Cl.  
 A 61 B 17/36

識別記号

庁内整理番号  
 7058-4C

⑬ 公表 昭和57年(1982)4月8日

部門(区分) 1(2)

審査請求 未請求

(全 7 頁)

⑭ 多極電気の手術装置

⑮ 特 願 昭56-501899  
 ⑯ 出 願 昭56(1980)10月28日  
 ⑰ 翻訳文提出日 昭57(1982)1月13日  
 ⑱ 国際出願 PCT/US80/01443  
 ⑲ 国際公開番号 WO 81/03271  
 ⑳ 国際公開日 昭56(1981)11月26日  
 ㉑ 優先権主張 ⑳1980年5月13日㉒米国(US)  
 ㉓145576  
 ㉔ 発 明 者 オース・デービッド・シー  
 アメリカ合衆国ワシントン州98005ベル  
 ビュー・ワン・ハンドレッド・アンド・

トウエンティサード・アベニュー・サウス・イースト2220  
 ㉕ 発 明 者 オビー・エリック・エイ  
 アメリカ合衆国ワシントン州98103シア  
 トル・アシユワース・アベニュー・ノー  
 ス3914  
 ㉖ 出 願 人 アメリカン・ホスピタル・サプライ・コ  
 ーポレーション  
 アメリカ合衆国イリノイ州60201エバン  
 ストン・アメリカン・プラザ1  
 ㉗ 代 理 人 弁理士 湯浅泰三 外2名  
 ㉘ 指 定 国 DE, JP

16

請求の範囲

1. 周面、近接端部から末端部まで延びている長さ方向軸線および近接端部から末端部にかけての排出口孔にまで延び組織をきれいにする流体が通過できるようにする流体通路を有する多極プローブ本体と、プローブ本体に接続された電気的に接続されている複数の導体とを備えてなり、導体にはプローブ本体の周面上に電極が形成され、1つの導体の電極が別の導体の電極間に介在せしめられ、異なる導体の電極が排出口孔付近で末端部上と周側面上とに間隔をあけた列にして延びプローブ本体が使用される時加熱される組織に相対的に有効に多極配向にして組織を少くとも双極治療できるように方法と分布とにしていることを特徴とする組織の治療に使用される電気的手術装置。
2. プローブ本体上の導体には末端部と周側面上とに延びている少くとも6個の複数の電極が形成されている請求の範囲第1項の電気的手術装置。
3. 導体がそれぞれプローブ本体の周面上に長さ方向軸線に対してほぼ平行に配置され少くとも8つの電気的に接続された長さ方向電極で形成され、異なる導体に接続された電極がそれぞれ順次に内周方向に互いに間隔をあけられプローブ本体の周面に組織に少くとも双極接触する能力を有するようにしてある請求の範囲第2項の電気的手術装置。
4. プローブ本体が矩形を断面材で形成されている請求

17

の範囲第3項の電気的手術装置。

5. 流体通路には電気的に接続された導体の一方のものの電極に電気的に接続されている導電性ライニングが設けられてある請求の範囲第1項、第2項、第3項または第4項の電気的手術装置。
6. プローブ本体が導電性流体通路の末端部に相当するほぼ中心の開口を設けたほぼ倒角形状の末端部を有し、導電性ライニングに接続された電極がプローブ本体の倒角形状の末端部上に延び導電性ライニングに末端部で接続し、別の導体に接続された電極が末端部上に延び導電性ライニングに接続された電極から間隔をあけた関係にして延びプローブ本体の末端部において多極接触能力を有するようにしてある請求の範囲第5項の電気的手術装置。
7. 電極が長さ方向軸線を中心として約60°程度のほぼ等角度の範囲にして分布されている請求の範囲第6項の電気的手術装置。
8. 多極プローブ本体に位置決めされた電極の数が対応する多相エネルギー源による電極の多相付勢に比例して選択される請求の範囲第1項の電気的手術装置。
9. プローブ本体が周面と内視鏡通路をその近接端部から末端部までプローブ本体が通過できるようにする寸法にした断面とを有している特許請求の範囲第1項、第2項、第3項、第4項または第5項の電気的手術装置。
10. 流体通路に電気的に接続された導体の1つの電極に